

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	食道胃接合部腺癌における脾門部リンパ節転移のリスク因子の検討
	研究目的	近年、本邦で増加傾向にある食道胃接合部癌の治療成績は不良であり、より良い治療戦略が求められている。 進行した食道胃接合部癌の脾門部リンパ節転移の頻度は少なくなく、脾門部リンパ節の郭清を目的とする脾臓摘出術は治療成績向上に有効である可能性がある。 本研究は、食道胃接合部癌症例の患者因子、手術因子、病理学的因子などの中から脾門部リンパ節転移のリスク因子を解析し、脾臓摘出術が有効となり得る症例を探索することを目的とする。
	研究対象者	1986年から2013年に当院で外科手術を行なった食道胃接合部腺癌の患者様
	研究期間	西暦 2020年5月11日～西暦 2021年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	熊頭勇太
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科 胃食道
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし